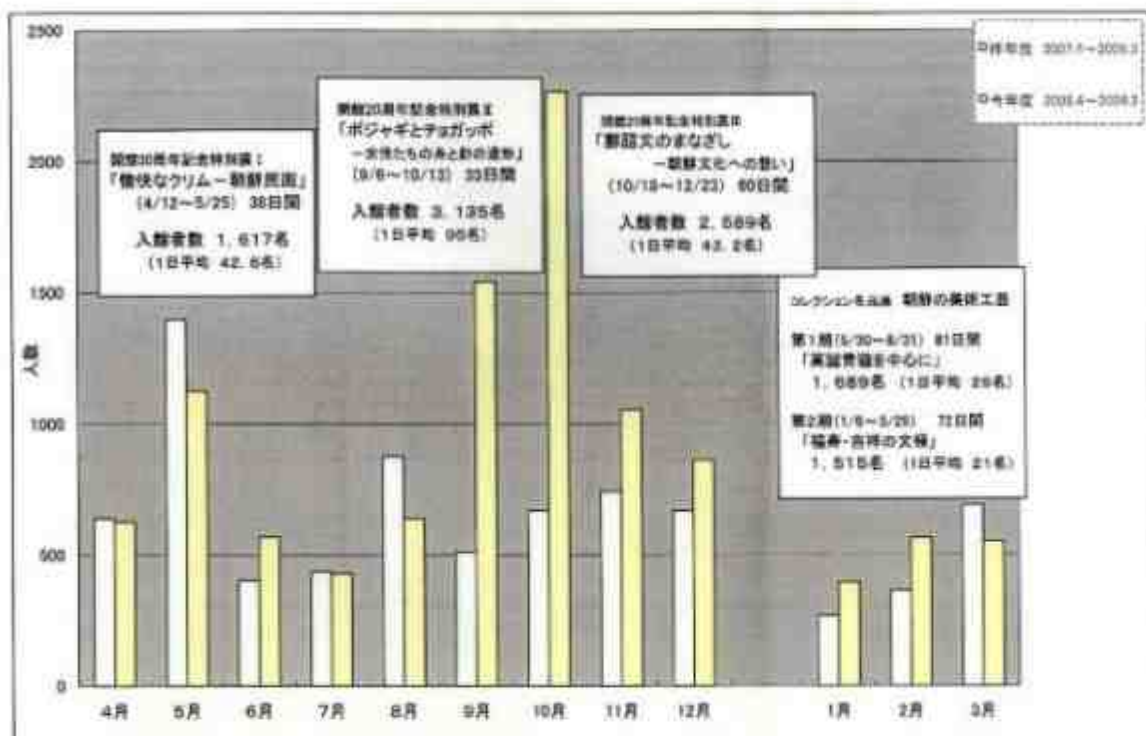


<2008年度 年間入館者数累計>

(単位:名)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
前年度 2007.4～2008.3	670	1,401	450	438	670	510	670	745	669	300	505	691	7,670
今年度 2008.4～2009.3	670	1,127	569	428	670	1,543	2,366	1,064	861	378	665	553	10,626
前段差	0	-274	119	-110	0	1,033	1,716	319	192	70	-140	-138	-2,944



総入館者数 10,626名 (7,670名)
※前年度比増減

(内訳)

一般・要項 6,740名 (4,973名)
大英生 848名 (492名)
中心生 370名 (328名)
会員 335名 (179名)
団体 2,833名 (1,898名)

1日平均 36.6名 (26名)
1ヶ月平均 865名 (640名)

報告資料②「高麗美術館」館報発行一覧（2008年度）

	巻頭について	特別講座・特集	その他
第78号 (4/1)	【文字図「証」】 朝鮮時代 (19世紀) (真)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開館二十周年によせて「我がが国故、高麗美術館」：岡部伊都子先生（副館長） ・ 展覧会への誘い「開館二十周年記念特別展Ⅰ「愉快なクリム－朝鮮民画」：片山真由子（高麗美術館研究員） ・ 高麗美術館研究講座・抄録「朝鮮通信使と筆談唱喩」：李元植先生（元近畿大学教授） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究講座のご案内：テーマ「高松塚と朝鮮」 ・ 展覧会のお知らせ「愉快なクリム－朝鮮民画」「朝鮮の美術工芸－高麗青磁を中心に」 ・ 日本の覚え書き：鄭喜斗
第79号 (7/1)	【青磁・白磁・文書】 高麗時代 (14世紀) (真)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通俣 岡部伊都子先生「美術館の命は巨大」：上田正昭館長 ・ 「高麗先生と文書」：鄭喜斗常務理事 ・ 展覧会への誘い「開館二十周年記念特別展Ⅱ「ボジャギとチョゴッポ」」に寄せて：山本俊介（高麗美術館研究員） ・ 韓国の秋－伝統の生活文化を訪ねる：西垣史比古先生（京都大学大学院教授） ・ 高麗美術館研究講座・抄録「西人の交流」：黒川修一先生（京都造形芸術大学准教授） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義・慶尚北道を行く－伝統の文化が息づく都市と建築と民俗村と」企画案内 ・ 展覧会のお知らせ「コレクション」名品展Ⅰ「朝鮮の美術工芸－青磁を中心に」 ・ 日本の覚え書き：鄭喜斗
第80号 (10/1)	【鉄砂紙・魚文書】 朝鮮時代末期 (真)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高麗美術館開館二十周年によせて「高麗美術館と鄭賢文さんのこと」：森浩一先生（同志社大学名誉教授） ・ 展覧会への誘い「高麗美術館開館二十周年特別展Ⅲ「鄭賢文のまなざし－朝鮮文化への思い」」に寄せて：李煥憲（高麗美術館研究員） ・ 高麗美術館研究講座・抄録「高松塚と異国文化のミニメント」：齋藤清隆先生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連絡会員の皆さまへ「事務局からのご報告とお祝い」 ・ 展覧会のお知らせ「高麗美術館コレクション名品展Ⅱ「朝鮮の美術工芸－青磁・古洋の文様」 ・ 日本の覚え書き：鄭喜斗
第81号 (1/1)	【朝鮮古書百種 字図】 朝鮮時代 19世紀；料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「武藝の技点と交遊の場」：上田正昭先生（高麗美術館館長） ・ 講演会・抄録「世界中の韓国女性文化」：許東華先生（韓国・制紙博物館館長） ・ 特別講座「新羅の飲茶史－固有茶道の発露」：金明培先生（韓国・茶学会顧問） ・ 研究講座・抄録「中国・朝鮮と日本の雙面言語」：河上邦彦先生（神戸山手大学教授） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ボジャギ探査・韓国統一秋のソウルを演説」報告 ・ 日本の覚え書き：鄭喜斗 ・ 新刊のご案内「開館二十周年記念図録」「研究紀要第6号」

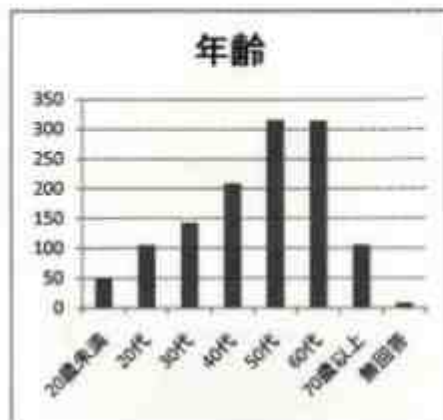
報告資料③研究講座一覧（2008年度） 片：東教大文学部センター「高松塚と朝鮮」

	日時	講師	テーマ	聴講者数
第106回	2008/09/24 13:00～14:30	齋藤 清隆先生（奈良文化財研究所准常務研究員）	高松塚は異国文化のミニメント	86名
第107回	7/08/22 13:00～14:30	河上 邦彦先生（神戸山手大学教授）	中国・朝鮮と日本の雙面言語	91名
第108回	7/11/22 13:00～14:30	上田 正昭先生（高麗美術館館長/京都大学名誉教授）	高松塚と『日本のなかの朝鮮文化』	71名
第109回	2008/10/28 13:00～14:30	千住 秀先生（奈良国立図書館館長）	高松塚古墳の想像と振興者達	68名

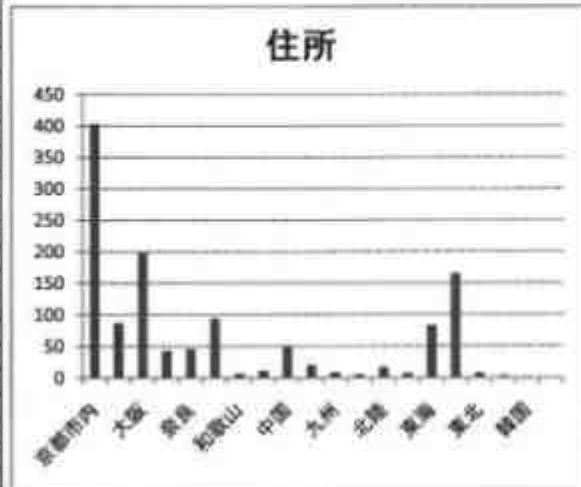
高麗美術館来館者アンケート集計結果表 (回答数1,249名)

実施: 2008年4月~2009年3月

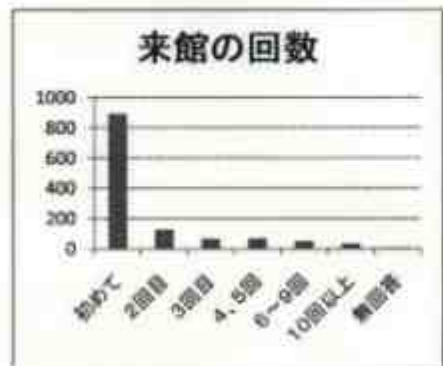
年齢	人数
20歳未満	49
20代	105
30代	143
40代	209
50代	315
60代	314
70歳以上	106
無回答	8



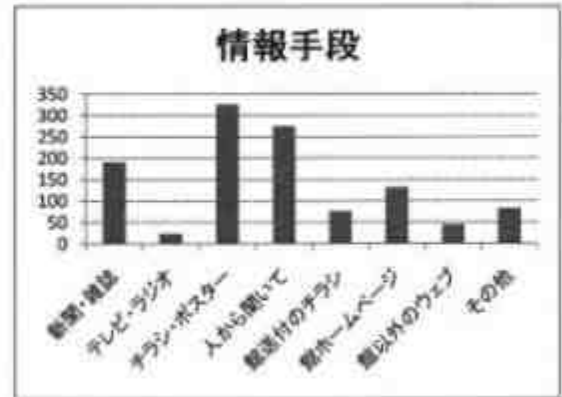
住所	人数
京都市内	400
京都府内	87
大阪	198
滋賀	43
奈良	46
兵庫	94
和歌山	7
三重	11
中国	50
四国	20
九州	9
沖縄	5
北陸	17
信越	7
関東	83
関東	186
東北	8
北海道	4
韓国	2
朝鮮	0



来館回数	人数
初めて	893
2回目	127
3回目	67
4、5回	69
6~9回	49
10回以上	34
無回答	10



情報手段	人数
新聞・雑誌	191
テレビ・ラジオ	24
チラシ・ポスター	326
人から聞いて	276
贈送付のチラシ	76
館ホームページ	132
館以外のウェブ	44
その他	83



＜来館者からのメッセージ＞（アンケートより抜粋）

■楽しみにして来ました。一足では物足りないので、また訪れるつもりです。美術工芸品をじっくりと見ているだけでも想像が広がりますし、高麗美術館は色々と考えさせられる場です。だから何度でも通って考え続けたい、今日もたくさんの宿題をもらいました。

■開館 20 年、訪れる度に教えられること、思い出すことが多いです。京都の街で「民衆」の美術館として、人々の心の交流と出会いの場として、これからもよろしくお願いします。

■鄭昭文氏の朝鮮に対する大きな、深い思いが私の心に強く伝わってきました。温かくゆったりとした一時を過ごすことができ、嬉しかったです。

■『日本のなかの朝鮮文化』『街道をゆく』などを読んで、金儲けよりももっと意義のあることをしたいとの強い思いを知り、日頃からこの高麗美術館へのあこがれがありました。今回の 20 周年記念特別展は、私には大きな意味のある来館でした。

■鄭氏の思いに深く印象づけられた。朝鮮と日本の友好の一助となりたい。

■鄭昭文氏の素晴らしいコレクションを拝見出来て、改めて朝鮮文化の素晴らしさを認識しました。また感動しました。

■手刊『日本のなかの朝鮮文化』を 15 号あたりから受読し、金達寿さん、上田正昭先生らと遺跡めぐりに参加したこともありました。示唆に富んだ内容と読み易さ。50 号で終刊したときには落胆したものです。本日はどうしても足を運ぶつもりで参りました。とてもうれしく、鄭昭文さんにお会いできたような気分でおります。

■鄭昭文氏が南北朝鮮の統一を熱望されながら、それを見られず亡くなられたことが悲しい。一日も早く統一が実現することを願う。

■「汝の足元を深く掘れ、そこに泉あり」とのニーチェの言葉を思い出しました。この小さな美術館に、泉のような清らかさと美を希求する火のように熱い志を感じます。多くの人々に守られて愛される場所でありますように。

■なぜ日本にこれら朝鮮の品が散らばっていたのかを知りたい。またどのように鄭氏は収集してこられたのか、そしてこの美術館が、鄭氏のいない現在、どのような暮らしをもっていくのか、期待しています。日本で朝鮮文化のほんものに触れる場が少ないので、貴館がその役割をしてくれたらありがたい。